

2018 国際審判試験報告書

2018年2月21日～2月25日にアラブ首長国連邦国ドバイ市で開催された FIE 国際審判試験の受験について以下の通り報告いたします。

1. 渡航期間

2018年2月20日～2月26日

2. 受験者

佐藤公良・森田篤哉・弘瀬智子・濱野理・神尾有飛

3. 参加国

アラブ首長国連邦・オーストラリア・ブルネイ・香港・インド・イラン・韓国
サウジアラビア・レバノン・インドネシア・日本
三種目合計 35 名

4. 日程

2月21日 サーブル

2月22日 エペ

2月23日 フルーレ

※3日間とも午前：セミナーおよび映像分析、午後：映像分析および口述試験

2月24日、25日 アジアカデ選手権予選プールでの実技試験

5. FIE 試験官



EL MOTAWAKEL MOHAMED (左 以降→モハメド氏)

KNYSCH IRINA (右 以降→イリナ氏)

6. セミナーの形式

ホテルの会議室において、午前中 2～3 時間の中でジャッジ方法の講習とビデオ映像による演習が行われた。演者としてイリナ氏が講義を行いモハメド氏が補足する形式でセミナーは進行した。説明の方法は種目・場面によって異なるが、基本的に前半は押さえておかなければならない起こりやすいシーンのジャッジ方法とその解説を、例となる映像や実演により説明を受けた。後半は試合映像を使い受講者が主審とビデオ審判役になりそれぞれのシーンをジャッジし、それを元に受講者全体でディスカッションする。それぞれの映像について正しいジャッジは示されず、ただし即座に判断をすることを求められる。

1) サーブル

はじめに、「レフリーが試合前に行くこと」について試験官から質問があり、受験者は順番に回答する。ビデオを使った解説では、まずトレーニングビデオを流して、シンプルなアタック・コントロールアタックの解説がされた。途中からワールドカップの試合動画に変わってアタック・コントロールアタックとプレパラシオン・アタックの解説がされた。5～6本の動画の

解説後に、レフリーとビデオレフリーを順番に行い、映像についてジャッジをした。

ビデオレフリーは、レフリーのジャッジに対して同意かどうか質問があり、ジャッジの意見が違う場合は、ビデオレフリーはどうジャッジするのか説明を行う。その後、セミナー参加者全員にレフリーとビデオレフリーのどちらの意見に同意するか挙手による回答が求められる。1人あたり2～3本の映像を見てジャッジを行った。

- ・アタック・コントロールアタックの解説
- ・アタックとプレパラシオン・アタックの違い
- ・アタック・ノン・コントロールアタックとアタック・ノン・アタックの違い

2) エペ

- ・トウシュの有効または無効なシチュエーションの説明
- ・ノンコンバティビテの成立要件
- ・クーランセの有効性
- ・機器の故障に起因するトラブルの例
- ・剣を持たない腕/手の使用の判断基準

3) フルーレ

- ・アタック・コントロールアタックの見極め
- ・アタックオフエール・パラードリポストとドウバッテ・アタックの違い
- ・ポワントアンリニュのジャッジについての基本的な考え方
- ・接近戦におけるカバーリング違反の判断基準

※全体的な講習の流れは3種目とも同じである

ディスカッションで積極的にコミュニケーションをとることが必要である。休憩時間での質問は受け付けず、質問は全員の前での発表が求められる。セミナーの最後に午後のスケジュールが貼り出されてセミナーは終了となる。

7. 試験の形式

昼の休憩の後、試験は1名ずつ15分ごとの枠で実施される。

- (1) 約10～15問、ビデオを見てジャッジ。(担当 イリナ氏)
- (2) 約5問程度の質問に答える。(担当 モハメド氏)

ビデオ試験終了時でPライセンス可否発表は行われず、全員が4日目～5日目のアジアカデ選手権予選プール戦まで実技試験を行なう。大会指名審判からチョイスされた国際審判員の監視のもとジャッジを行う。フルーレ・サーブルでは逆の判定をするとその場で指摘が入り判定を覆えさせられる。ジャッジミスが多いと試験は次のラウンドにも延長され、逆に問題なしと判断されるとプール戦途中でも試験は終了する。またピスト上以外の試合全体のコントロールも評価対象となる。



実技試験の様子

(3) 携行品

- ◎ 審判員としての服装
- ◎ ペナルティーカード
- ◎ 英語版ルールブックと罰則一覧(口述試験に備えて)
- ◎ 日本語版ルールブックと罰則一覧

8. ビデオ試験の詳細

(1) ビデオ映像でのジャッジ

試験官から「リアルなスピード(100%)で判定が可能であれば、決定しなさい。難しければ、スロー再生(30%)を1回のみリクエストしなさい。」と説明を受ける。その後、10~15フレーズ程度をジャッジする。自身の「プレ・アレ」の発声でビデオが再生される。

フルーレ…ストップ・ストップの攻撃優先権。コントロールポストによる攻撃の優先権。

トゥシュ回避のコル・ア・コル。クー・ランセの見極め。

アタックとシュル・ラ・プレパラシオン

エペ…通常のトゥシュ、ドゥブル。交差後のトゥシュ。横の境界線を超えてからのトゥシュ。トゥシュ回避のためのコル・ア・コル。相手以外の物体へのトゥシュ。

サーブル…アタック・コントロールアタックとプレパラシオン・アタックのジャッジ。

アタック・ノンとアタック・ディレクトのジャッジ

(2) 口述試験

主に服装およびペナルティーについての質問が多く出題された。それぞれの質問に簡単に答える。競技規則の競技規定と用具規定については十分に熟読しておく必要があり、また罰則の一覧(t. 170)は全て暗記してあることが望ましい。下記は今回の試験における質問事項である。

【競技についての質問】

1. ノンコンバティビテの成立条件を2つ答えなさい
2. 団体戦においてノンコンバティビテが起きたときの対処を述べよ(1~8 試合目、9 試合目、スコアの記入方法)
3. ビデオはどのような場面で使用するか(4つ)
4. ビデオの再生は1シーンにつき何回できるか?
5. 記録されたトゥシュが無効となるシチュエーションを5つ述べよ(エペ)
6. ボディーコードが抜けた(手元、後ろ、リールと中間の接触)場合に受けたトゥシュの有効性は?(エペ)
7. 剣が折れた後に受けたトゥシュは有効か?
8. 団体戦でベンチに入れる人数

【用具についての質問】

1. エペにおける衣服の正しい着用方法は?
2. ジッパーのゆるいユニフォームの着用は許されるか?
3. 許容されるソックスの色は?(赤、黒、左右で違う色)
4. フルーレにおける規則に適合したメタルジャケットとマスクのバヴェットのサイズは?

【違反と罰則についての質問】

1. 第1グループの違反について3つ答えなさい
2. 第1グループ1回目の違反で出すカードの色は？
3. 第1グループ2回目の違反で出すカードの色は？
4. 第2グループ1回目の違反で出すカードの色は？
5. ユニフォームの背中の名前と国章の欠如(ワールドカップ、世界選手権、個人 or 団体、入れ直せなかった場合)に対する罰則は？
6. 検査マークの無い武器を持ってピスト上に立った選手に与えられる罰則は？

9. 審判試験を終えて

(1) 佐藤公良

エペBライセンスの取得から3年、AFC試験を経て今回のフルールBの受験となった。今回の試験に照準を合わせ国内の大会等で実践を通して試行錯誤しながら準備を進めてきた。セミナーの形式は3年前よりも実践的な内容に変化し、より高いレベルの審判員の発掘や育成を主眼とした狙いを感じた。とはいえ根幹にあるものは基本の徹底であるとも感じた。試験官から「とにかく素早く決断しなさい、考察は後でいい。だから早い決断をするための準備を常にしておきなさい。」と言われたことが印象的でもあり、そのことを肝に銘じて今後の活動に活かしていきたい。

最後に今回の受験にあたりご支援・ご尽力くださった審判委員会メンバー並びに協会スタッフの皆様に対し心より御礼申し上げます。

(2) 森田篤哉

昨年はサーブルのBライセンスを受験し、今回はフルールのBライセンスの受験であった。FCAの試験を含めると3回目の受験であることと、昨年と同じ試験官であったため、特別な緊張はなく、セミナー、映像分析をすることができた。口述試験の際に、「問題は他の試験者から聞いているはずだから、(私の試験の順番が後半であったため)特別に難しい問題を出すわ。」と全く準備していなかった問題を出され、その場で回答することができなかった。その日の夜に深夜までルールブックを何度も読み直し、勉強した内容は今後絶対に忘れることのない良い経験となった。

帰国前の挨拶の際に試験官から言われた「これからも審判技術を向上させなさい。これからが大事ですよ。」という言葉をお忘れず、今後の審判活動に励みたいと思う。

最後に今回試験を受験するにあたってサポートしてくださった審判委員の皆さま、協会スタッフの皆さまに深く感謝申し上げます。

(3) 弘瀬智子

今回がFIEライセンスのフルール・サーブルの初受験であった。初受験ということで、最初はかなり緊張していたのだが、セミナーで他の受験者の意見や実際にビデオを見ながらジャッジすることで幾分緊張も和らいだように感じた。ビデオ試験では、2種目ともフレーズの訂正等はなく、口頭試験も特に不備なく受け答えできたように感じた。

プラクティカル試験では「審判は堂々と自信を持って行うように。」といったアドバイスをいただいたが、フルールでは自信のなさが見えたように感じたので、今後は、フレーズはもちろんのこと、ルールを熟知していかなければならないと実感した。

また、現時点で自身の英語力が乏しいため、他の受験者や講師の二人とコミュニケーションをとりながら意見の交換をすることがあまりできず、語学力を向上させるべきだと痛感した。試験後「(若い)女性審判は特に抗議が激しいから、これからは強い気持ちで審判を行うように。これからが本当に大変ですよ。」といったアドバイスをいただいた。今後は自身のスキル向上だけでなく、日本の審判団の技術向上にも助力できるよう精進したい。

最後に、今回の審判試験のチャンスをいただけたこと、受験に当たり忙しい中お時間をいた

だきサポートして下さった審判団の皆様、協会スタッフの皆様には深く感謝申し上げます。

(4) 濱野 理

今回が FIE ライセンスの初受験で、フルーレとエペの B ライセンスを受験した。昨年 12 月の FCA の C ライセンスの試験からあまり間が空いていないタイミングでの受験であったので、用語や説明についての不安はあまりなかった。しかし FCA ライセンス試験の際には実技試験がなかったため、今回の実技試験はかなり緊張した。

フルーレでは、結果的には判定を修正されることは無かったが、個人的には細かなフレーズのミスがいくつかあったと感じた。試合後に担当試験官である FIE 審判員の方とこれらについて話したところ、「微妙なフレーズだったが、主審の第一印象が最も正確なことが多いので特に問題は無い」とのコメントをもらった。

エペでは判定自体や試合の進行はスムーズにできたのではないと思うが、プール戦中にコーチがピスト付近にいることが多く、最初は外に出るように指示していたが次第に試合を裁くことに集中してしまい、他のプールも含めてコーチがピスト周辺にいる状況になってしまった。最終的には DT から「コーチや応援は立ち入り禁止」という全体アナウンスが必要になってしまい、審判員として技量不足を痛感した。今後の審判活動にあたって、判定だけでなく試合全体のコントロール技術の向上にも励みたい。

最後に今回の貴重なチャンスをいただけたこと、また受験にあたってサポートして下さったことに協会スタッフ、審判委員会の皆様には深く感謝申し上げます。

(5) 神尾 有飛

今回、初めて FIE ライセンスのサーブルとフルーレを受験した。セミナーのときから試験官や他の受験者の意見を多く聞くことができ、とても勉強になった。FCA を受験した時のように、日本人の方がいなかったのも、勝手にわからず不安や緊張はあったが、多くの審判とコミュニケーションを取り、意見の交換ができた。ビデオ試験では、サーブル・フルーレともに、フレーズの分析やジャッジなど特に問題なく、修正などはなかったが、口答質問では、質問の内容は、理解できるが、説明する為の言葉がスムーズに出てこず、ジェスチャーを交えて回答・説明を行った。プラクティカル試験では、実際に活躍されている審判のもとで試験を行い、アドバイスをもらい、実践の中でフレーズの解説やシチュエーションに対してどう思うか、どうジャッジをするのかなど意見交換を行ってもらった。

試験後に試験官の方から、「もっとコミュニケーションを取れるように。」とのお言葉をいただいた。今後もルールの熟知と審判レベルの向上に努めたい。

審判試験の受験にあたり、サポートして下さった審判の方々、協会のスタッフの皆様には深く感謝申し上げます。

